令和４年９月号

ノア Smile

春日部セントノア病院
〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野１１１２-１
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp

～目次～

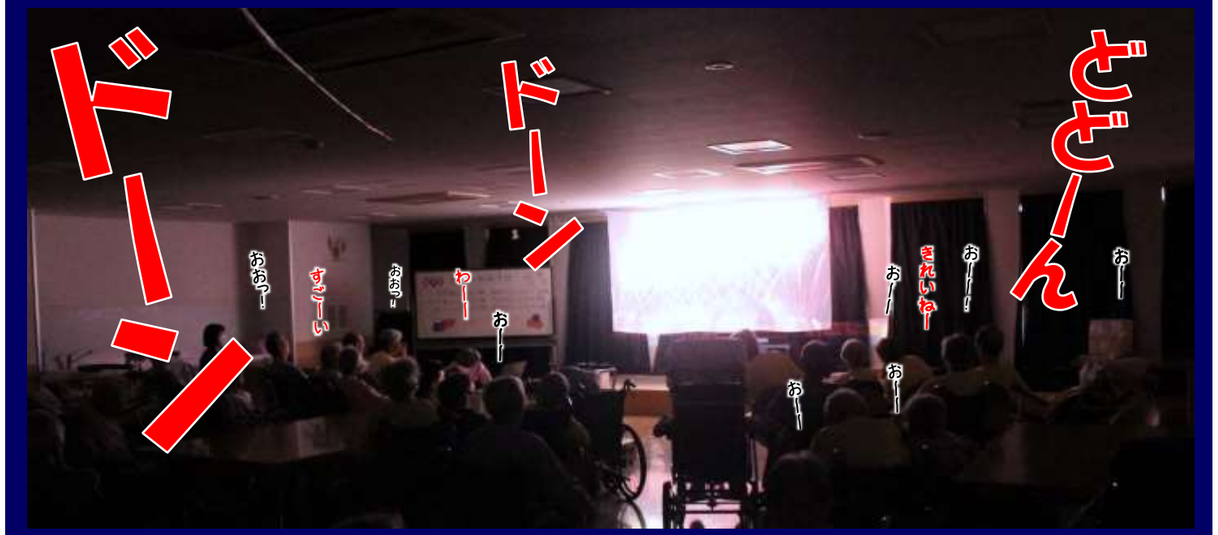
●病院短信　宮嶋　孝子
●日常の一コマ　宇佐美　里美
●いきいき看護・介護　大草　めぐみ
●放射線科だより　宮下　寛
●花火鑑賞会　デイルームにて
●スタッフ紹介　吉田　秀子

９月の予定

◇誕生日会
１病棟　９月１２日（月）
２病棟　９月１３日（火）
３病棟　９月　９日（金）
各病棟デイルーム　１４：００～

１病棟 花火鑑賞会

誕生会と同時に花火鑑賞会が開催されました。皆さん何が始まるのかと興味津々、ソワソワしながらその時を待ちます。



特製大スクリーンと大音量のド迫力に大歓声が上がります。皆さんおめめキラキラお口あんぐり、釘付けです。

私、セラピー犬『サラ』は８月４日で５歳になりました。皆さんから愛される名セラピー犬目指して、これからも皆さんに甘えまくることをここに誓います！よろしくね❤

真夏間の花火鑑賞会でしたが、暗幕で真っ暗だったせいか雰囲気抜群、予想以上の大盛況でした。２病棟と３病棟は９月開催予定です。

スタッフ紹介

３病棟　看護師
吉田（よしだ）　秀子（ひでこ）
星座：おうし座
趣味：ツーリング
好きな食べ物：お肉

入職して２か月が過ぎようとしていますが、まだまだ至らない私は、優しい先輩方に助けて頂きながら何とか頑張っています。コロナ禍で大好きなツーリング仲間とのご当地グルメ旅はなかなか実行できていませんが、落ち着いたらまた皆で楽しみたいと思っています。
プライベートでの時間も充実させ、仕事もしっかりと頑張っていきたいと思いますので宜しくお願い致します。

病院短信

『笑顔あふれる職場』

看護部長　宮嶋　孝子

セントノア病院に入職してまだ４か月目に入ったばかりの新人です。しばらく緊張する日々だろうと覚悟していましたが、想像とは違い、前からこの病院にいたような自分の感覚に驚きました。職員と顔を合わせると、毎日笑顔で接してくれます。一番驚いたのは、患者さんに接するときの職員の素敵な笑顔でした。急性期病院にいた私は、職員があれほどの笑顔を患者さんに向けているところを、なかなか見たことがありませんでした。つらそうに疲労感が漂っている姿が多く、胸が痛むことばかりでした。セントノア病院の職員の笑顔はどこから来るのだろうと思い、まず観察してみると「病院の方針」にあると気付いたのです。

患者さんには優しく、職員が働きやすい環境を、というような文言があり、実際にいろいろなことを確認していくと、この方針に職員がみな賛同し、実践していることが大きく関係していると理解することができました。院長や事務局長は、まず職員が幸せであることが大切と考え、それらが笑顔となり、楽しく働く活力となっていると強く感じます。

認知症専門病院という特殊な病院であること、最も患者さんの安全面には気を使わなければならないはずの病院が、身体拘束ゼロを職員に徹底しています。本当にそれが出来るのか半信半疑でしたが、病棟に行って本当にびっくりしました。重症の患者さん以外はベッドに臥床している方がいないのです。完全な身体拘束ゼロが実施されていること、今までの私の知っている看護は何だったのだろうとショックを受けました。素晴らしい病院の方針の中で、素晴らしい看護・介護が実施されていました。他の病院から転院された患者さんが元気になり、食事も食べられるようになり、笑顔で自由に行動し、楽しそうに話しかけてくる。それを皆、一生懸命聞き、うなずいている。これが本当の看護・介護だと思いました。

当たり前のことを当たり前に行っている。もちろんすべての病院が出来るわけではありませんが、身体拘束ゼロを実施している病院があることを知ることが出来ました。今までの看護師としての自分は何を考え、何を指導してきたのか自信がなくなりました。しかし、このような病院の方針があり、それを実践している職員がいることでこれからの病院のあり方を学ぶことができました。また働きやすい職場環境は職員を幸せにし、笑顔あふれる職場になることと思います。いつまでも続くように見守っていきたい。

素晴らしい病院、素晴らしい職員に出会えたことに感謝しています。

放射線科　だより

診療放射線技師　宮下　寛

今年の秋も残暑が厳しくなりそうですが、皆さんは目への紫外線対策していますか？

可視光をはじめ赤外線や紫外線は、診断用や治療用Ｘ線と同じく『電磁波』の仲間です。医療業界では殺菌や治療などに広く利用される紫外線ですが、一般的には日焼け・シミ・しわ・皮膚がん・白内障・免疫機能の低下など人体への悪影響の方が有名ですね。

紫外線は一年中降り注いでおり、目に当たった紫外線は目の健康に影響を及ぼすことがあります。特にスキー場や夏の海などのレジャーに出かけた際に目が充血することがありますが、紫外線の影響の場合がほとんどです。これは目の日焼けのようなもので通常は一晩で回復しますが、炎症がひどい場合は強い痛みと涙が出る「紫外線角膜炎（雪眼炎）」になることもあります。

目への紫外線対策として最も有効なのは、目に隙間なく密着するUVカット機能付きのソフトコンタクトレンズです。サングラスや帽子と併用すると、さらに効果的です。なお日傘は暑さ対策にはなりますが、目に浴びる紫外線をカットする効果としてはあまり期待できません。

一方で、紫外線は骨の健康などに有効なビタミンＤを体内で作り出すためにも必要です。紫外線を過度に恐れることなく、有効な紫外線対策をしたうえで適度に外で過ごす時間を持つのが良いでしょう。

日常の一コマ

今月の一コマは、３病棟の睦昭さんです。睦昭さんは長崎市の生まれで、５歳の時に被爆したため、家族で五島列島に疎開しました。高校卒業後は単身で上京、練馬区のふとん店に就職。そして２１歳で結婚、４人のお子さんに恵まれるも、２人のお子さんは直ぐに亡くなってしまったのだそうです。

その後、タクシー運転手に転職した睦昭さんは、６８歳ぐらいまで働いていたそうです。

７２歳になった頃から少しずつ生活に異常が出始め、台所の水道は出しっぱなし、コンロの火も付けっぱなし、などが頻繁に起こり、時にはそのまま外出してしまう事もあったためにご家族が地域包括支援センターに相談、病院受診を勧められました。結果は「アルツハイマー型認知症」とのことでした。そこでご家族は「施設入所」を本人に勧めましたが途端に怒り出し、勝手に団地の一室を借りて一人暮らしを始めてしまったそうです。

睦昭さんは他にも「糖尿病」という持病を抱えていましたが、一人暮らしを始めたために糖尿病の服薬やインシュリンの管理などが段々とずさんになり、一人暮らしの自宅で、糖尿病の発作を起こしては救急車で運ばれるという事を繰り返していたそうです。そしてその入院中にも自分の病室やトイレが分からずウロウロしたり、売店で食べ物を購入して勝手に食べたりと、認知症状も少しずつ進んでいったようです。

７７歳の時に有料老人ホームに入居しましたが、毎日のように施設を抜け出しては電車に乗り、ご長女さんのお宅に帰って来ては「車のカギをよこせ！」と騒いで、車のタイヤをパンクさせようとするなどご家族も困り果てて、当院に入院相談に見えられ、平成３０年３月に入院をされました。

入院当初の睦昭さんはいつも落ち着きがなく、とても怒りっぽい方でしたね。また「帰宅願望」がとても強く、特に車とカギと免許証に強い執着心を持っていました。そこでスタッフたちは睦昭さんの前では絶対に車の話はしないこと。そして出来るだけ話を他の話題に持って行くことを話し合い、実行してきました。しばらくすると睦昭さんもこの病院の入院生活にも慣れてきたようで、ディルームの同じテーブルに座るテーブルメイトたちと笑って会話をしたり、病院のスタッフたちとも冗談を言い合ったりと楽しく生活を送れるようになりました。

近頃の睦昭さんは、足に少々ふらつきが見られるものの、その表情はとても柔らかくなり、優しいお顔になっています。これからも睦昭さんが毎日楽しく、笑顔で過ごしてもらえるよう、スタッフ一同、しっかりと見守っていきたいと思っています。　３病棟　介護員　　宇佐美　里美

いきいき看護・介護

２病棟　介護福祉士　大草　めぐみ

私たち介護士は、1日の大部分を患者さんの生活支援に費やしてしまうため、日頃ゆっくりと患者さんの話を聞く機会があまりありません。それでも先月の七夕の際に、短冊に願い事を書いて頂こうと、一人ひとりと向き合う時間を作りました。

Ｏさんは「かっこ良く老いたい」、Ｔさんは「皆の幸せを願う」と書かれました。久しぶりにペンを持って書いた短冊は、とても達筆な字でした。思い起こせばＯさんは、毎日起床時に洗面台の鏡を見て、きちんと身支度を整えてからデイルームに出てこられていました。Ｔさんは日頃、全くご家族のことは話されていませんでしたが、心の中ではいつも考えていらっしゃったのだと思い、同僚と「素敵だね」と微笑みつつ、とても感動しました。

私はいつも患者さんが安全や安楽に過ごせるよう考えて支援をしていましたが、今後は、その人の生きてきた歴史や思いをくみ取り、日常のお手伝いをしていきたいと思います。